

助動詞「まし」確認テスト（反実仮想） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 「なかりせば」。「(桜が) なかりせば～のどけからまし」で、「せば～まし」の反実仮想構文を作っている。手がかりとなる接続助詞は「ば」。

問2 もしこの世の中にまったく桜がなかったなら、春を過ごす人の心はのどかであっただろうに。(実際には桜があるので落ち着かない、の意)

問3 反実仮想。「知りせば…ざらましを」で、事実に反する仮定（夢だと知っていたなら）を述べている。

問4 (これが) 夢だと知っていたなら、目を覚まさないであっただろうに。(夢だと知らずに目覚めてしまったことが残念だ、の意)

問5 「夢と知りせば」の「(知り) せば」。「せ」は過去の助動詞「き」の未然形、「ば」は接続助詞)

問6 (解答例) 夢と知らずに目覚めてしまった悔しさと、夢の中の人への未練。

問7 「映らざらまし」。「あらましかば (仮定) ～映らざらまし (結び・主節)」の構造で、主節の結びは「映らざらまし」の「まし」。

問8 もし鏡に色や形があったなら、(物の姿は) 映らなかつただろうに。(実際には鏡に色も形もないからこそ物が映るのだ、の意)

問9 (1) 「ましかば～まし」の型。(2) もし雨が降ったなら、外出して行かなかつただろうに。(実際には雨が降らなかったので出かけた、の意)

問10 ためらいの意志（「～しようかしら」と迷う気持ち）。この酒を一人で飲もうかしら、それとも友を待とうかしら、の意。

問11 ためらいの意志。「さあ、どうしようか」「帰ろうかしら、とどまろうかしら」と迷う気持ちを表す。

問12 さあ、どうしようか (どうしたものか)。

問13 もしあの人(生きて) いたなら、こんなに心細くはなかつただろうに。(実際にはその人がもういないので心細い、の意)

問14 「せば～まし」の型。「ありせば～あらざらまし」)

問15 (解答例) 実際はその人がもういないので心細いが、もし生きていればこうではなかつたのに、という嘆き。

問16 「ましかば～まし」の型。「さかざらましかば～心ときめかざらまし」)

問17 もし春の花が咲かなかつたなら、世の人々もこれほど心をときめかせなかつただろうに。(花が咲くからこそ人は心ときめくのだ、の意)

問18 (1) 「ましかば～まし」の型。(2) もし声を立てたなら、人に聞こえてしまっただろうに。(だから声を忍ばせたのだ、の意)

問19 未然形。

問20 ①「のどけからまし」…終止形、③「映らざらまし」…終止形、⑥「せまし」…終止形 (いずれも文末で言い切っているため終止形)。

問21 未然形。(反実仮想は假定条件なので未然形+『ば』。『ましかば』は『まし』の未然形『ましか』+接続助詞『ば』で假定条件を作る。『まし』は未然形に『ませ』『ましか』の二形があり、ここは未然形『ましか』。已然形『ましか』+『ば』は確定条件で別用法。)
